

case  
1A社様大型工場の  
設備故障の予測

A社様大型工場の稼働データは種類も多く巨大でまさにビッグデータです。現場の担当の方だけではこの複雑なデータの全容を把握することは困難ですが、担当の方の業務知見と弊社のデータ解析技術により、故障予測に役立つモデルを作成しました。これにより、設備故障を事前に予測することができるようになり、今後の安定生産への寄与が期待されます。



設備故障の事後対応のため  
対応コストがかかっていた

データ分析



設備異常発生前に事前対応  
が可能に

## 他にも...

様々な要因が絡むデータを元に予測を行い、故障やトラブルが発生する前に先回りして計画的に対処することで突発的なラインの停止の回避や、想定外の対処費用を軽減することを期待できます。

また、受発注量の予測などもAIで行い、過剰な在庫や販売機会の損失を防ぐことができます。

case  
2総合商社B様のデータセンターの  
異常値検知 PoC

総合商社B様のデータセンター内にあるネットワーク機器の、稼働データおよびIoTで収集した環境データ(気温、湿度、照度等)から異常値を検知する概念実証実験に参加しております。監視業務の品質向上および自動化・省力化のために行っており、2018年度は対象となるデータセンターを増やしてPoCを進める予定です。



人手によるデータ監視。  
人の目で違いがわかりにくい  
データの発見は難しい。

データ分析



AIによる監視で些細な違いや  
新たな監視観点の発見も可能。  
24時間365日休まず監視。

## 他にも...

正常時のデータを機械学習させることにより、正常ではない状態に変化した時に警報を発することが可能です。

また、良品/不良品のデータを学習させることで、不良品の検知もAIで行うことが可能になります。

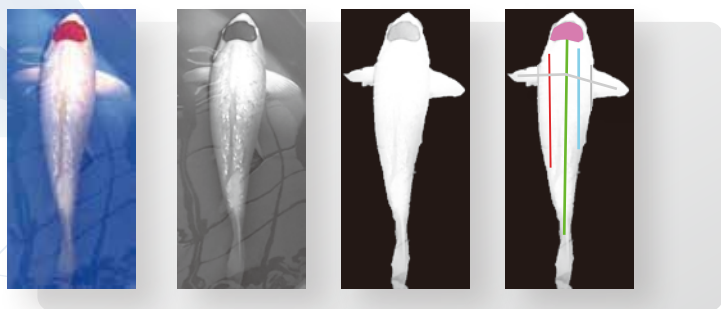
case  
3

# 機械学習を用いた錦鯉の 個体識別システム

地元新潟の産業推進のために「IT でなにかお役に立てないか」と考え、弊社では大日養鯉場株式会社（本社：新潟県小千谷市）様のご協力を得て、「錦鯉の個体識別システム」の開発に取り組んでいます。

養鯉業は職人の方の経験と勘に頼るところが大きい業界です。職人の方の経験と勘を、後進の育成やよりよい錦鯉の生産のためにデータ化すべく、錦鯉の成長による変化にとらわれない個体の識別方法（特許出願中）の研究をすすめています。

なお、本システムの試作開発は公益財団法人にいがた産業創造機構 (NICO) の 2018 年度先進技術開発支援事業に採択されています。

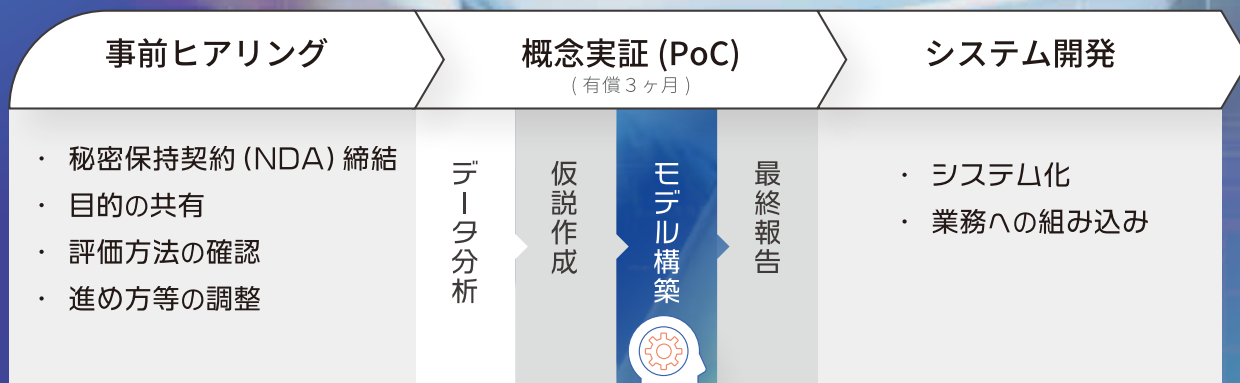


※画像は開発中のものです

## 他にも...

熟練技術者の勘や経験を数値化し、AI が若手技術者をサポートすることで技能継承に役立てられると考えています。

## AI 導入の流れ



課題解決